

碁老連 ニュース

第58号

碁老連の目的

ボケ防止のために、老人団体同好者の誰もが
『碁老連として』ことば出来ぬよう、機会と場所
を確保するために相談話し、団体を通じて親睦
を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢
献することを意願とする。

発行日 平成6年11月8日
発行所 八王子の碁老連会員連合
〒193 八王子市初沢町1434-46
TEL (0426) 66-3754
発行人 熊崎正一

第6回碁老連団碁大会実行委員会

1. 大会委員会

委員長
副委員長
委員
" " " "

熊崎正一	(碁老連会長)	大会準備
安藤久雄	(研修部事務長 3級)	大会実行委員長
安藤吉彦	(研究同好会副会長 5級)	会場設営紙漉
大本英夫	(中野 " 2級)	財物場設置
佐藤泰之	(横川 " 2級)	"
佐藤義文	(大和田 " 初級)	"
山田明郎	(元達子 " 3級)	参加料受付
阿久津洋	(中野 " 2級)	"
佐久間俊	(田木 " 2級)	"
吉川田中	(田井 " (代理)初級)	"
吉倉忠	(北野 " 3級)	"
安部寛男	(田木栄 " 2級)	"

2. 研修委員会

委員長
委員
" " " "

永安浩二	(碁老連技術顧問)	Aクラス相当
川村章三	(")	B "
小林一昭	(研修員 4級)	C "
大木喜代蔵	(" 3級)	Aクラス
	(" 3級)	B "
	(" 3級)	C "

3. 審査委員会

審査長
審査員
" " " "

長崎洋三	(兼 1位)	
川村章二	(")	

4. 運営委員会

委員長
委員
" " " "

橋本一也	(研修部事務次長 2級)	大会運営統括
石田一也	(研修員 初級)	NTT碁老連取扱
小松豊雄	(" 4級)	"
佐藤保二	(長寿会員 4級)	東京
飯沼昭二	(研修員 4級)	経済産業省
	(" 4級)	"
	(" 3級)	"

注: 大会日時 平成6年10月30日、会場 総合福祉センター
碁老連会員(有做者)のため大会料付、研修会員の方々に掛かる料金を支えた。

(1)

基準連団碁大会成績表

A 7手目(4段)以上成績表

A 7手目(4段)以上成績表												右判読人
優勝												
準優勝												
3位												
4位												
5位												
6位												
7位												
8位												
9位												
10位												
11位												
12位												
13位												
14位												
15位												
16位												
17位												
18位												
19位												
20位												
21位												
22位												
23位												
24位												
25位												
26位												
27位												
28位												
29位												
30位												
31位												
32位												
33位												
34位												
35位												
36位												
37位												
38位												
39位												
40位												
41位												
42位												
43位												
44位												
45位												
46位												
47位												
48位												
49位												
50位												
51位												
52位												
53位												
54位												
55位												
56位												
57位												
58位												
59位												
60位												
61位												
62位												
63位												
64位												
65位												
66位												
67位												
68位												
69位												
70位												
71位												
72位												
73位												
74位												
75位												
76位												
77位												
78位												
79位												
80位												
81位												
82位												
83位												
84位												
85位												
86位												
87位												
88位												
89位												
90位												
91位												
92位												
93位												
94位												
95位												
96位												
97位												
98位												
99位												
100位												

(2)

2

大夏人統人

A 7ラス成績表

平

3	1	1	1	1	1	0	3	2	0	1	3	2	2	0	2	2	1	3	2	3	2	1	1	1	3	2	1		
0	X	X	X	O	X	X	O	X	O	O	X	O	X	O	X	O	O	O	X	X	O	O	O	X	O	O			
山	藤	省	山	奇	稻	大	松	裏	X	佐	根	山	越	省	矢	國	宮	松	木	入	長	佐	田	長	矢	在	新	中	
本	木	本	河	河	河	个	本	本	本	本	本	木	木	木	木	木	木	木	木	木	田	藤	谷	个	原	保	田	居	
總	井	(開)	源	湯	泉	寺	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	新	原	原	保	田	居	者	隱	
0	O	X	O	X	X	X	O	X	O	O	X	O	O	X	O	X	O	O	O	X	O	O	O	X	O	O	X		
八	山	保	靈	裏	清	絹	佐	清	小	佐	早	中	播	山	養	田	奧	宮	市	木	户	松	大	長	藤	長	村		
屋	祝	水	藤	木	藤	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	
木	下	野	田	四	一	陽	(圓)	陽	林	木	川	蜀	川	田	田	田	田	村	山	内	川	鳥	泉	井	康	川	田	部	
0	X	O	X	O	X	O	C	O	X	O	O	X	O	O	X	O	O	O	X	O	O	X	O	O	X	O	O		
西	小	佐	宮	山	山	市	夫	夫	保	豊	松	根	長	手	木	稻	平	固	菜	梅	青	小	青	早	大	佐	松	村	
祝	藤	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	
山	藤	林	下	金	金	泉	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	
孝	廢	宗	則	庄	嘉	金	廢	日	弘	正	外	福	高	祥	利	吉	智	忠	誠	昭	一	更	二	郎	三	委	治	名	
二	郎	次	晃	文	也	治	照	平	星	伯	清	德	望	寿	忠	尼	治	夫	勤	人	之	萬	次	勇	三	委	治	人	族
4	4	4	4	6	7	4	4	6	6	4	5	4	4	7	5	5	6	5	5	5	4	6	7	5	5	4	6	4	6

七夏人統人

B 7ラス成績表

平

2	2	2	1	1	3	1	1	1	1	1	2	1	0	1	2	0	0	3	2	1	2	1	1	3	0	1	2									
0	O	X	O	X	O	X	C	X	O	O	X	O	X	X	X	X	O	O	X	O	O	X	O	O	X	O										
弦	石	增	倉	鶴	鶴	島	山	中	江	河	山	片	牧	倉	橋	石	大	キ	安	加	奥	内	良	小	千	藤										
石	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木									
反	秋	田	田	島	島	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋									
X	O	O	X	O	O	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	O	X	O	O	X	O	O	X	O	O										
山	安	名	橋	小	木	佐	美	高	中	山	藤	内	露	石	年	孤	吉	鳥	小	小	横	阿	久	加	福	小	植									
本	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木									
紳	部	取	本	種	所	木	村	重	屋	進	紙	山	居	山	田	用	篠	竹	川	田	津	藤	島	山	松	島	者									
0	O	X	X	O	O	X	O	X	O	O	X	O	O	X	O	X	O	O	X	O	O	X	O	O	X	O	O									
水	草	中	長	藤	内	倉	石	大	名	加	安	小	不	鳥	山	江	安	石	小	山	嶋	達	紫	小	山	石	吉	村								
井	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田									
新	田	島	島	所	連	根	山	物	件	不	取	藤	柳	柳	津	柳	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山									
32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.				
草	木	長	中	高	長	内	藤	石	食	名	六	安	加	木	小	山	离	安	江	小	石	山	城	福	嶋	後	中山	小	告	石	氏					
水	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木				
井	草	島	島	寺	峰	山	波	井	田	取	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木				
光	重	微	隆	正																																
一	失	広	健	二	久	危	昇	之	收	進	矢	男	男	雄	早	藤	仁	雄	雄	雄	義	明	達	高	昭	康	光	孝	位	名						
2	3	"	2	"	1	"	1	"	3	"	"	2	3	"	"	1	"	3	"	"	2	"	3	"	"	1	"	2	3	"	2	3	"	2	3	
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

C 14天(初級・準初級)成績表

不	後	入	続	く	（	17天	（初段・中段・終段）	）	通	水	予	選
0	3	2	1	103	2	1	122220	1	13	2221	1	203
X	0	X	X	X	0	X	X00000	X	00	00X	X	0X④
栗	岡	佐	中	大	倉	銀	吉	折	波	松	雁	不
本	子	(同)	島	夏	鳥	尾	田	井	辺	木	山	戻
X	0	0	X	C	X	O	0	0	X	X	深	石
和	大	古	中	渡	植	深	金	笠	庭	園	佐	福
田	重	川	(海)	邊	松	升	原	原	夏	嶺	見	庭
X	0	C	0	X	X	O	O	X	X	O	X	O
高	宍	新	洋	深	平	益	道	山	小	石	屋	中
瀬	戸	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬
30	25	20	21	26	25	24	23	22	21	26	19	12
宍	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
江	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬	瀬
金	京	一	英	福	好	益	忠	善	利	伝	富	清
一部	一	脚	一	脚	三	大	脚	三	雄	一	尊	義
二	脚	二	脚	二	脚	三	脚	三	雄	弘	那	健
三	脚	三	脚	三	脚	三	脚	三	雄	那	那	安
四	脚	四	脚	四	脚	四	脚	四	脚	那	那	正
五	脚	五	脚	五	脚	五	脚	五	脚	那	那	利
六	脚	六	脚	六	脚	六	脚	六	脚	那	那	名

卷之三

優勝

吉田

求勝戰

準優勝

平
村
記

中
七

益健吉正国京
大一男頭男一
初初初初號初

上卷

22	201	12112	2	1033
0X	CXXC	XX④④	0	X00
石衝	福達四稻中磁不伊千	西キ音山		
越瀬	庄田海菜健口藤	谷ケン瀬所		
00	CX XX 0	XX XX	0	X00
石山	山折石高錦栗高感	益川松稻		
田浦	上井川藤菜尾木健口	千行本菜		
X0	XX0X00	0X	XX	00
園庭	川喝高名石当伍古大種	穂佐山	川	村
戸田	竹根菜誠川川間(2)賀夏林	森瀬上	田	音
紳	4447961554443924140347327738353437323			
室窓	開嶋川名高古石佐当大古種山佐吉			
牛田	产根村越菜川川藤阿寅賀谷松上藤田			
政一	英孟正文一佐太森利吉国			
傳治郎	昭二時敏中哲寅部祐猪一傳男			
南翁	久初翁久久久久初	壽初	三	吉
齋	李	賢		

(4)

日本棋院
伊藤新規部長殿

(1)
平成6年10月31日

暮老連会長 熊崎正一

暮老連の目的及び活動方針についての即報告

暮老連（奈良は八王子の暮老連として老人連合）は、「ボケ防止のために暮老連を立ち上げた」運動を展開するためには八王子全市を八地域に分割して地域毎に寿園暮老連好会を設立し、毎月日曜日（3回）を例会日と定め、暮老連としてあります。

会場は、市民センターや市の事務所等の公的施設を利用してあります。団体設備の関係上会員数は制限され、現在310名となっております。尚、八王子市内の60才以上の有効者数は、暮老連による有効者登録簿に登録されていて741名となっておりますが、調査不備のため実在数を把握するのは困難な状態です。

更に、級位者については、調査不能状態で数人乃至は1人位といはうだらう位の程度です。

以上のような状況下において、暮老連の規定上の目的は、「ボケ防止のために老人団体同好者の誰もが暮老連として」とが出来たよう、機会と場所を確保するためには相談なし、団体を通じて親睦を図り、更に下、より良き福祉社会の建設に貢献する」ととてあります。老人の組織団体である八王子市老人クラブ連合会は、団体に対する关心は非常に薄く、単なる遊びの程度だととの認識これがないように見受けられ、ボケ防止に不満が最も多く説明しても聞き流される始末です。

従って、多くの地区老人会（263ヶ所）では、団体幹部の多くは極度に過ぎる、新規開設の意欲など全く感じられない。

ボケ老人問題が国家の懸念と呼ばれていた今日、ボケ予防問題は老人会の最重要事項として対応せねばならないにも拘らず、旧態依然とした慣習による運営が続いている。

以上のように次次にて、暮老連の目的達成は仰々思ひに不進展であります。

次に、暮老連の活動状況について

1. 暮老連の内部活動について

(1) ボケ防止のための暮老連大会

今年で34回となりましたが、8地域の寿園暮老連好会主催、暮老連主催で、地区内の60才以上の有効者及び級位者（10級以下）全員を対象に実施しております。名簿登録の非会員には従属ハガキによる招待状を発送しております。

更に、暮老連主催による八王子球勝大会を開催しておりますが、球勝主催者が非会員の場合は、往復ハガキによる招待状を発送しております。

(2) 暮老連団体射撃戦

今年で36回となりましたが、会員のみ参加を条件で開催しております。

(3) 暮老連団体射箭戦

今年で35回となりましたが、各寿園暮老連好会は、初級大リメイクまでの階級別に代表／名前6名を1チームとして選出し、各チームにおける統括リーダー戦を行い、優勝チームを決定しております。

(4) タイトル争奪戦

(次頁へ)

(前より)

今年オ1回を実施し、八王子名人(日本棋院杯)、八王子王座(N・八王子天狗(碁聖連杯)を実施致しましたが、各団体同好会地区名人(前期3月～6月、後期9月～12月で全会員による総当り)、地区王座(前期1月、後期7月で敗者復活制トーナメント)、地区定期2月後期8月でトーナメント戦)を実施し、地区名人16名、地区天狗16名による決勝戦を行いました。

(5) 碁聖連研修会

平めてより、碁聖連体有段者だけを厚遇し、級位者を無視しておからんと/or脚意向を個別で取りましたので、碁聖連としては、当初有(各団体同好会)、級位者(碁聖連会)の両団体を設立の方針を定めましたが、会場関係担当者より、団体関係だけで2団体で、それには困る、級位会員で参加して欲しいとの脚意望がありまして改め、団体準備の関係上有段者だけで収容困難が状況であります。従が、相続者だけでの会を実施させたようになります。

然しあがう、級位者よりの脚意望が強すぎたので、級位者为主体研修会を開設の方針を定め計画致しましたが、非会員の有段者の方旺日は出られないので土旺日から参加出来るから、有段者も参加出来配慮して欲しいとの脚意望もあり、終局、相続者(初段へ1段)と級位者(1段へ10段)40名合計35名の定員制(団体セシト40名とし)期間1期6ヶ月とし、毎月土旺日(3回)を研修日と定め、併し総合福祉センターにて、平成3年10月実施致しました。

尚、研修会の実施要領としては、有段者関係については、碁聖連の顧問2名が交番で毎回2名宛指導員として参加し、級位者関係では、碁聖連会員より級格2名が専任で指導員として参加して本体会開幕式会は最終日の2回目の土旺日に実施することになりました現在まで、今年10月へ来年3月の期間でオ1回研修会を実施する予定。因みに、研修会は大好評で申込み多く、定員超過で何とか捌いてが、毎回保険者が統一してあります。

2. NTT敬老団碁会について

今年9月25日オ1回大会を実施致しました。

NTT、八王子天狗催、碁聖連協賛として実施しておりまわが、木門附止器業団碁地区大会をオ一次予選、八王子大会をオ二次予選と見做額にあり約100名をNTT大会に種類方々ごとに応じてあります。

以上にあり実施致してあります。NTT敬老団碁会はオ1回を都八王子団碁同好会においては、大好評と云う通り、特盛の大會で、御当地みさきに於て行なわれます。

然しあがう、NTT大会に出席の方には、前記のうな予選大会を突破だけが参加者として推薦されると仕組みにあつていても抱うが、大会終了後は、碁聖連より参加者は推薦の方々と、いつでもありますので、各団体同好会より連絡におかれて申込を受けであります、希望を御説明申し上げてあります。

毎年のことなので何とか用意対策をと格じてあります。会場使用上があり、残念ながら見送りより途が無いようですが。

3. 日本棋院木板常務理事殿完提案について

去る平成5年11月26日付を以て日本棋院木板常務理事に「新会規

(前章より)

(3)

者のボケ防止対策及び他の件に関する提案」を提出致しております。
審査は次の通りです。

(1), 60才以上の老年退職者で、低い級位の方達は、書を打つ機会や場所にも恵まれず、殆んど書き止めてしまつざるを得ないような状態に追い込まれており、その数は全国的に見れば百万人以上と推定され、更に毎年の数人増加している。

この課、日本棋院としては、老人囲碁爱好者のボケ防止対策を「社会奉仕事業として取り上げて頂きたい。」

(2), 小学校教育本、知識の習得であり、主として脳の刺激、囲碁は右脳と云われており、癡性鑑が灰人間形成上極めて効果が認められておりまつ。更に申しますれば、囲碁や音楽、絵画などの理想的習得期間は、幼稚園より小学校卒業位今までが最高位とされておりまつ。

従つて、小学校教育の學習又はクラブ活動に囲碁の採用推進を図るために、日本棋院として積極的反対案を構じて頂きたい。

(3), 全国各都府県に、本を連りたる老人囲碁爱好者の団体を設立するため、積極的指導、協力を御願いしたい。

4. 務務として囲碁の年次尺度を提唱

平成5年12月8日発行の基盤連ニュースダイア号により概説の提案をしております。政府は、高齢化社会を期し、高齢者福祉事業を最重要事項として対応すらと表明されている。

この際、政府の御配慮にお応へすけためにも、豈ぞ老人として、余生を「基盤連ニュースダイア 疾患隠居」など、お気に入りに構えていた時代ではないですが、草い囲碁と云う最高の特技を持つていうべきもので、囲碁は大方社会全体に普及して頂きたいと云う提案です。

むかしい問題ではありますと、万歳さんや他の幼稚園児や小学生等に碁の手ほどきをして下さないと云う事です。

其の理由は、有能な人材の育成が主眼であつて、碁打ち人間を作らのが目的ではないと云う事を理解して頂きたい。

さて、囲碁の効能について、次のようす情報を右欄に記入して下さい。

(1), 小学校教育は、知識一边倒の詰め込みを最も強制し、次の結果として、燃え氣力不足の脳人間が數多く本上来つているようですが、それに対し、囲碁は右脳の基本的訓練、即ち、思考力、創造力、記憶力、更には、集中力、忍耐力、決断力などを養ひ、自然の中に、論理的運用力、全般な見方目を養うなど、柔軟な思考方法を身につけるのである。

(2), 順番に並んで述べられ、勉強の好むに在るのだよと考へている人は、全く時代遅れを感じる。

即ち、学習は左脳中心で、囲碁は右脳主体であるために、そこを学習で疲れ左脳を囲碁で活性化させる効果が認められている。

(3), 将來、日本を背負つて立ち、世界平和と貢献し得る人材を確保するためには、積極的に右脳開拓に努めん、知能、体育、德育が一体とみたバランスのとれた人間の持ち主を養成せねば、どうなし。

即ち、囲碁は、その目的達成のための重要な要素を占めているのである。

以上申し述べましたようすは提案について、日本棋院に行かれても、事情御聴取の上、恐ろしく御協力の程お願い申し上げます。

以 上

(8)